



桃色巡礼者ミソノ

森奈津子・作　圭島ユウ・絵



桃色巡礼者（ミシン）

よく晴れた春の日。
あたし、野山美園の東京暮らし
は始まつた。

南向きのロフトつきワンルーム
マンション。

ここで、大学生活の四年間、一
人暮らしすることに。

ああ、なんていう開放感！



作りつけの棚たなに一人分の食器をひと通り収納し、ふと思う。

(グラスとかお皿は、もつとあつてもいいよね。友達が遊びに来るかもしねないし、彼氏ができるかもしれないし……)

彼氏——その言葉に、あたしの心にはフツと不安の影がさす。



これまで、あたしの恋は、つま
らないことでぶち壊しになつて、
どれも長続きしなかつた。

今まで、五人の男の子とつきあ
つてきた。

でも、もてたわけじやなくて、
一ヵ月も続かないから、回転が
速かつただけ。

キスもしたことないし……。



（そもそも、中井先輩なんかと
関わったのがまずかつたんだ！）

あたしは中学一年のとき、陸上
部で中井勝^{しょう}先輩と知りあつた。

彼は、ひとつ上の二年生。

日に焼けた肌に笑顔が素敵な彼
に、あたしはあこがれの気持ち
を寄せていた。



「おれ、結構、野山さんのこと
が好きなんだけど……野山さん
はおれのこと、どう思つてる？」

「あ、あ、あたしもつ。好きで
すつ。中井先輩のことつ……」

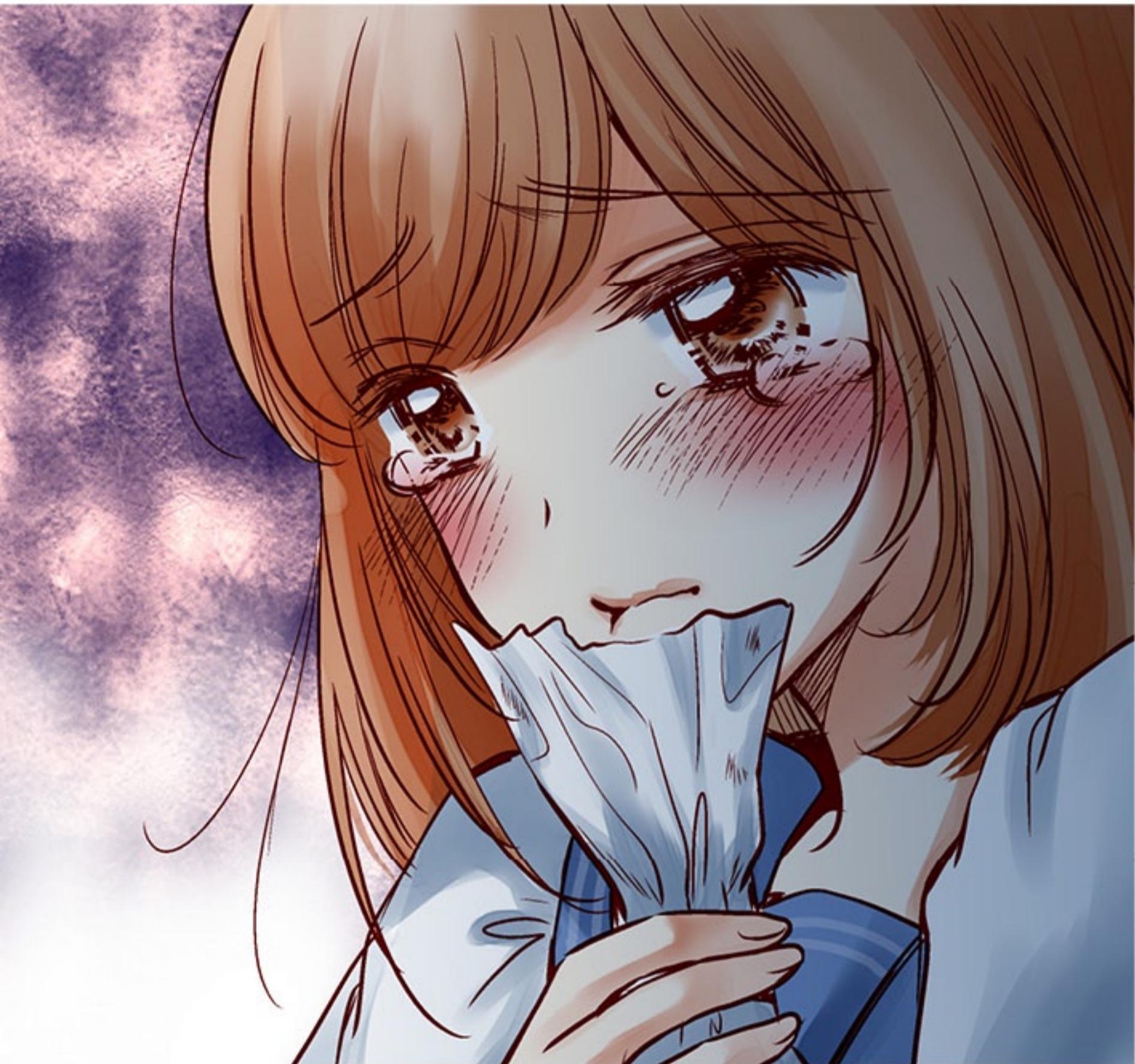
なのに——。



「勝はあたしとつきあつてるの」

「えつ？ で、でもつ……あた
し、中井先輩から告白されてつ
……」

「だから、あなたは勝に遊ばれ
ただけ。つまり、あなたがバカ
だつたつてこと」



その後も、あたしの恋はうまくいかなかつた。

オタクっぽいけど、眼鏡^{めがね}の奥の目がきれいに澄^すんでいて、まつげが長かつた、優しいヒデ君。

彼とはとても気が合つてたのに
……。



中学三年のとき、受験近くにな
つて親しくなった、同じクラス
の渡辺君。わたなべ

スラツと背が高かつた彼とも、
結局……。



高校一年のとき、同じ図書委員
だつた隣となりのクラスの亀田君かめだ。

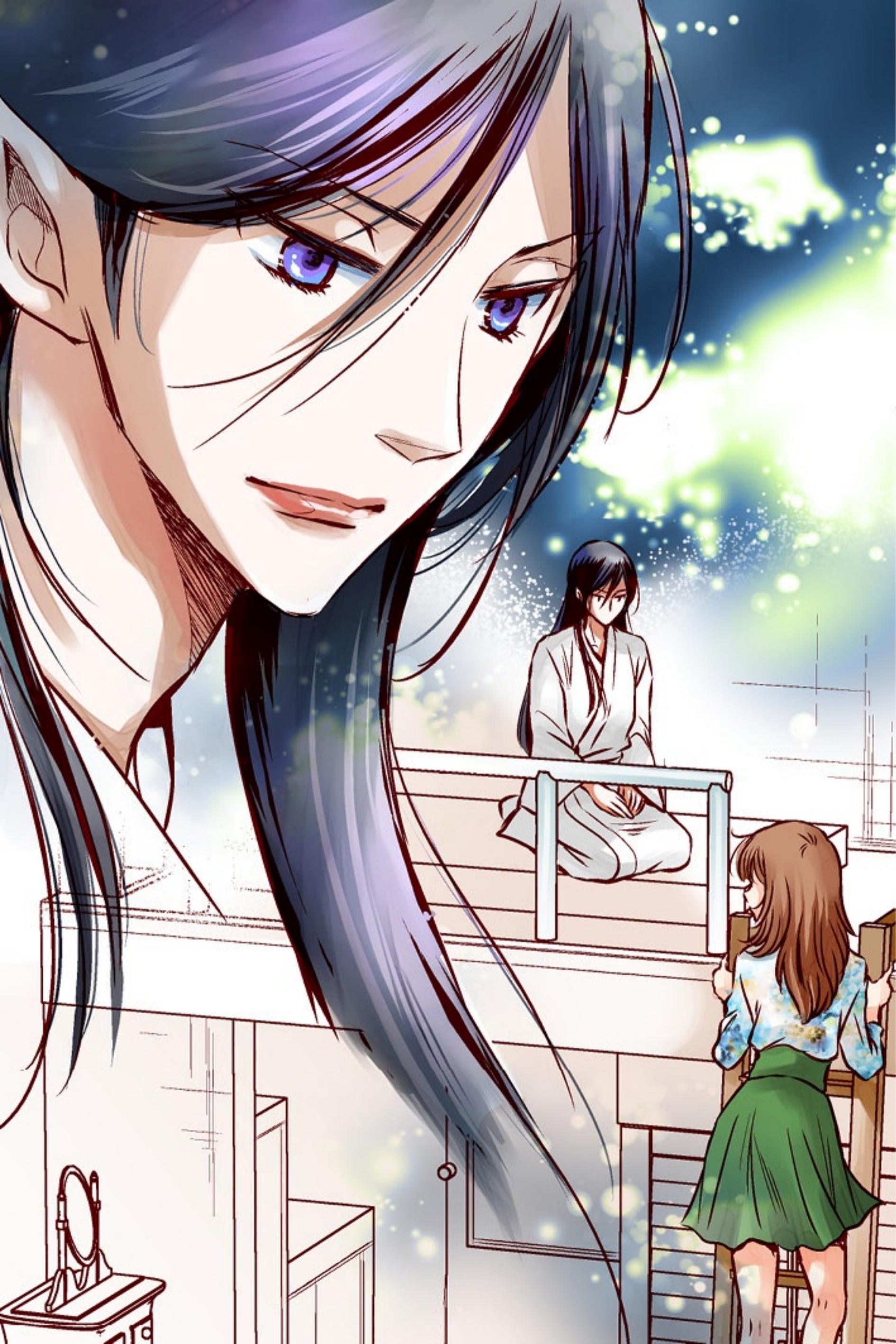
彼は優しくて、賢くて、話も面
白かつたのに……。



そして——。一人暮らしを始めたワンルームマンションで。

突然現れた、白い着物姿の不思議な美青年は、あたしに言つた。

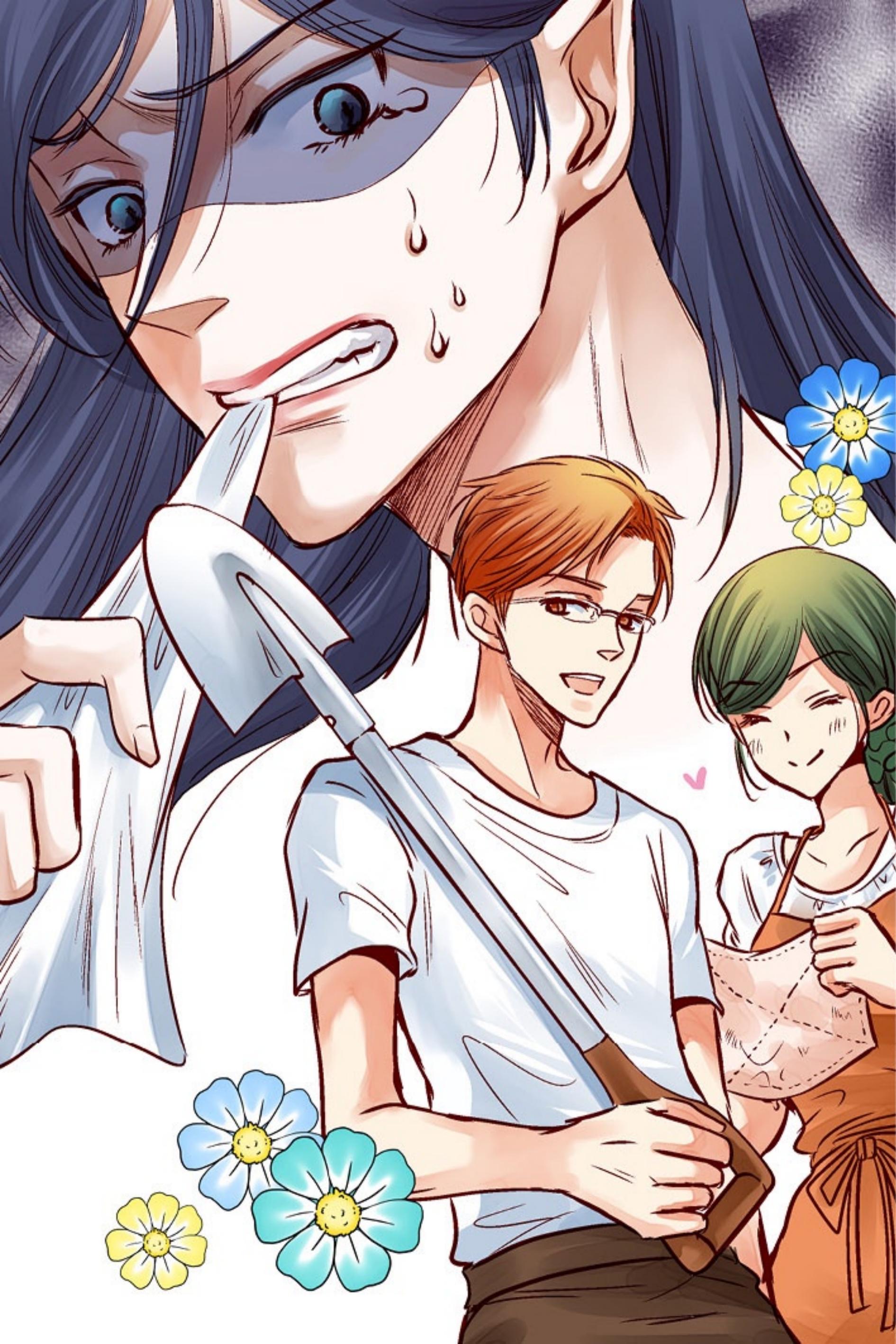
「あなたの恋が失敗続きなのは、私が祟つて いるからなのです」



アイジヤと名乗つた彼は、元々、
あたしの実家の庭にあつた祠に
祀まつられていた性愛の神なのだと
いう。

なのに、粗末そまつにされつづけて、
祟り神と化し……。

そのうえ、彼の祠を、兄夫婦が
家の増築のためにしてしま
い……。



アイジヤを祟り神から性愛の神に戻すには、あたしが性的な経験を積めばいいのだとか……。

しかも、その経験値は、アイジヤに渡された「ピンクカード」にポイントとしてたまるという話で……。

PINK CARD

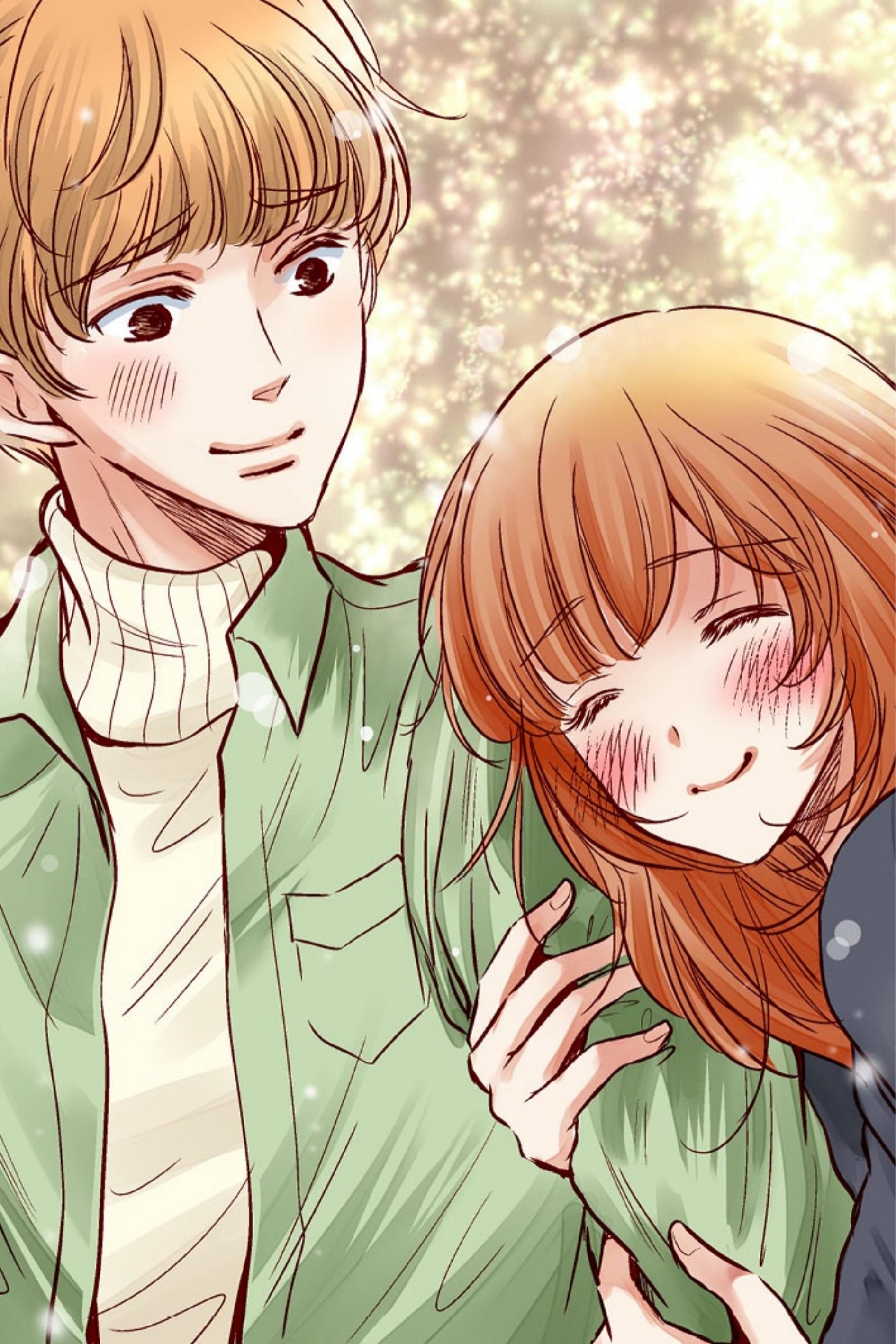
0



新生活で、次々と素敵な男性と
出会うあたし。

だけど、アイジヤには、とつか
えひとつかえ深い仲になるようにな
求められて……。

あたし、今まで、全然経験ない
のに！





アイジヤは語る。

ピンクカードにポイントがたまつて、祟り神だつたアイジヤが性愛の神に戻ることができれば、あたしにもいいことがある、と。

「素晴らしい恋人と真実の愛が、あなたのものに！」

さらに、アイジヤは――。

「祟り神をやめたら、信者ぐら
い、軽く獲得かくとくできましょう。そ
れどころか、私は恋愛成就じょうじゅの神
として、若い女性にもてはやさ
れること必至。そして、私の神
社は、たちまちパワースポット
として有名に！」



(寝言は寝て言えつ!)

とはいえ、このままアイジヤに
祟られてるのも、たまらない。

それに、ピンクカードのポイント
でゲットできるという「素晴らしい
恋人」と「真実の愛」にも、
とつても心惹かれるし……。

さあ、どうする、あたし!?

『桃色巡礼者ミソノ』

森奈津子／作
圭島ユウ／絵

©2015 森奈津子 / 圭島ユウ
©parsola inc.